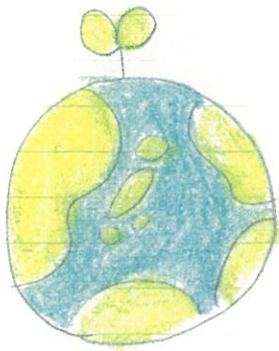


「国際社会で働くこと、国際人としての将来に向けて」



目次

p-1	目次
p-2	I 導入
p-3~6	II 通説
p-7	III 自分の意見
p-8	IV 考察
p-9	V 参考文献

I 導入

調査動機

私は、カーボンニュートラルと脱炭素に興味を持った。理由は、新聞やニュース等で見たり聞く言葉だが、その意味や詳細についてはよく知らなかったのが、気になったからだ。

カーボン(Carbon)は炭素、ニュートラル(Neutral)は中立という意味なので、カーボンニュートラルを直訳すると炭素中立、という意味になる。とすると脱炭素とほぼ同じ意味なのでは?と思ったので、カーボンニュートラルと脱炭素の意味の違いについても調べていきたいと思う。

II 通説

〈「脱炭素社会」・「低炭素社会」・「カーボンニュートラル」の意味〉

脱炭素社会	低炭素社会	カーボンニュートラル
<p>「二酸化炭素排出量をゼロにすることを実現した社会で、現在は脱炭素社会が目指されている」</p> <p>例) 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略</p>	<p>「二酸化炭素排出量を削減することを実現した社会」</p> <p>例) 脱温暖化2050研究プロジェクト</p>	<p>「どうしても削減しきれなかった二酸化炭素排出量分を、森林保全活動や植林による吸収量で差し引き、排出量を実質ゼロにすること」</p> <p>例) カーボンオフセットの活用や、再生可能エネルギーへの移行</p>

● 脱炭素社会

「脱炭素社会」とは、「炭素社会を脱する」と書いてあるとおり、「CO₂排出量をゼロにすることを実現した社会だ。少し前まで世界は「脱炭素社会」ではなく「低炭素社会」を目指していた。しかし、低炭素社会では2015年のパリ協定で決まった「世界平均気温を1.5~2°Cに抑える」という目標の達成が難しいと判断されたため、「脱炭素社会」を目指すようになった。

● 低炭素社会

「低炭素社会」とは、「CO₂排出量を削減することを実現した社会だ。「脱炭素社会」との大きな違いは、脱炭素社会はCO₂排出量を「ゼロにすることを目指している一方、低炭素社会では「減らす」ことを目標としている点だ。

● カーボンニュートラル

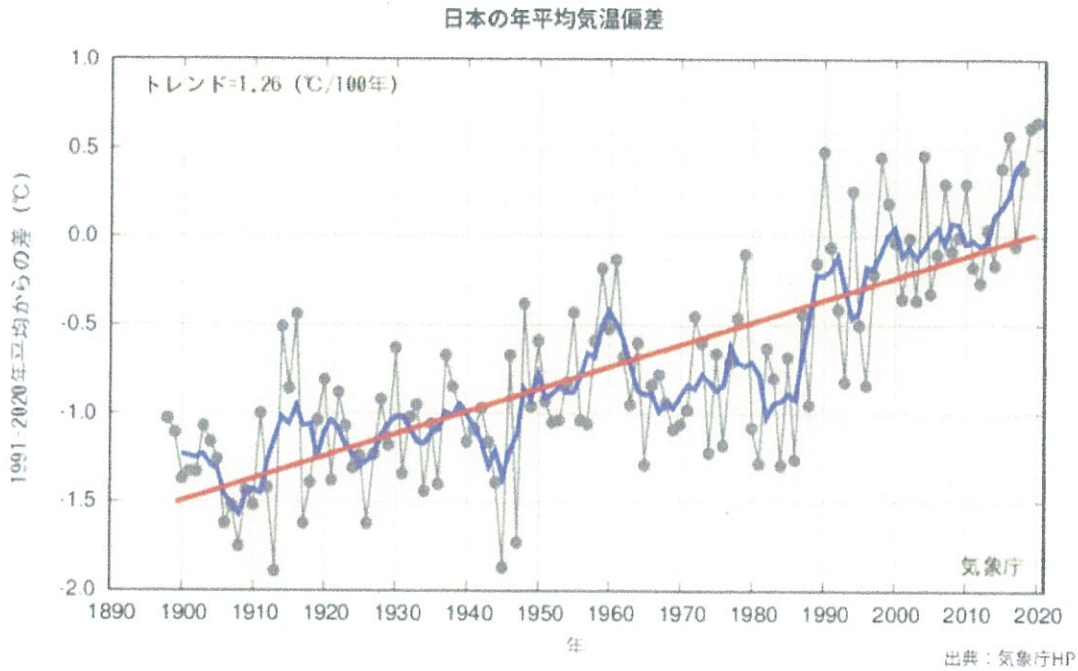
「カーボンニュートラル」とは、二酸化炭素排出削減の努力をした結果、どうしても削減しきれなかった分を森林保全活動や植林による吸収量を差し引き、排出量を実質ゼロにすることを目指した取り組みを指す。実質的に排出量をゼロにした状態を「脱炭素」と言い、それを実現した社会を「脱炭素社会」と呼ぶ。

「カーボンニュートラル」と「ゼロカーボン」は同意義である。

<なぜカーボンニュートラルを目指すのか>

気候危機を回避するため、いまから取り組む必要がある

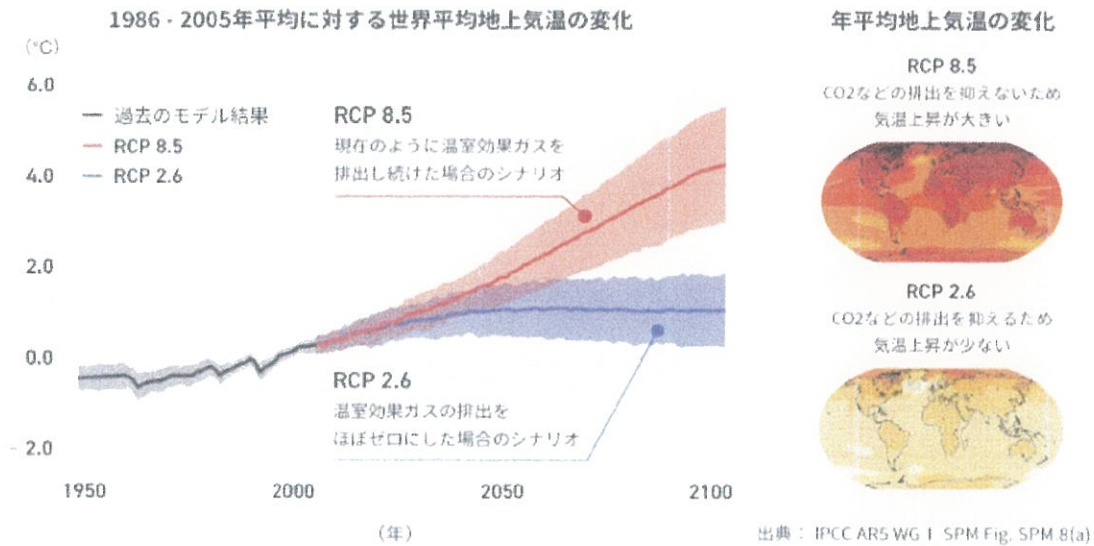
世界の平均気温は2017年時点で、工業化以前(1850~1900年)と比べ、既に約1°C上昇したことが示されている。このままの状況が続けば、さらなる気温上昇が予測されている。



近年、国内外で様々な気象災害が発生している。個々の気象災害と気候変動問題との関係を明らかにすることは容易ではないが、気候変動に伴い、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予想されている。日本においても、農林水産業、水資源、自然生態系、自然災害、健康、産業・経済活動等への影響が出ると指摘されている。

こうした状況は、もはや単なる「気候変動」ではなく、私たち人類や全ての生き物にとり、生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われている。

確かに...



気候変動の原因となっている温室効果ガスは、経済活動や日常生活に伴い排出されている。国民一人ひとりの衣食住や移動といったライフスタイルに起因する温室効果ガスが我が国全体の排出量の約6割を占めるといふ分析もあり、国や自治体、事業者だけの問題ではない。

カーボンニュートラルの実現に向けて、誰もが無関係ではなく、あらゆる主体が取り組む必要がある。

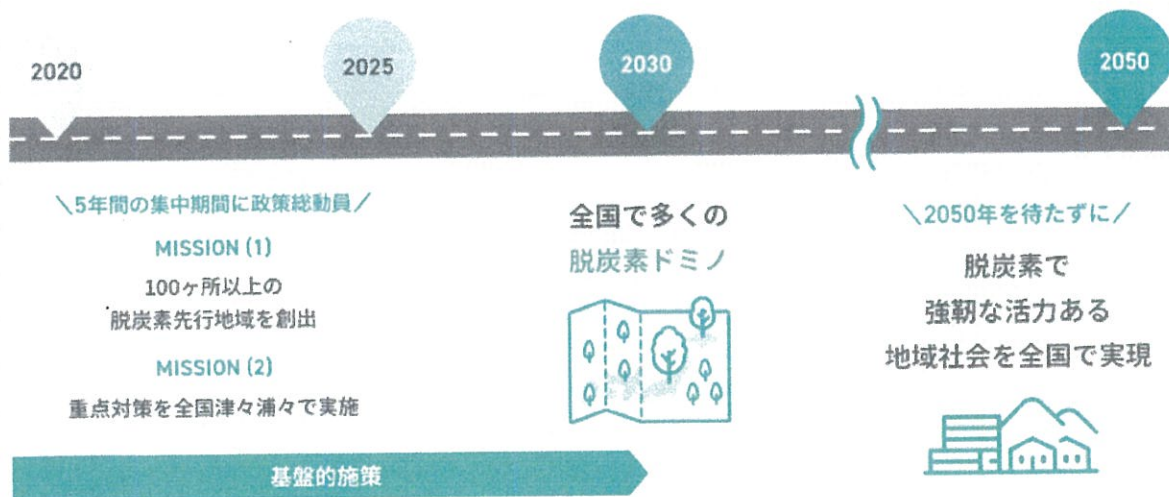
将来の世代も安心して暮らせる、持続可能な経済社会をつくるため、今から、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて、取り組む必要がある。

<カーボンニュートラル実現に向けて>

「脱炭素ドミノ」で重点対策を全国に伝搬する

2050年カーボンニュートラルの実現のために、革新的な技術の開発とその早期の社会への実装は重要だ。それとともに、現時点で活用可能な技術を最大限に活用し、すぐに取組を始めることも必要不可欠である。そこで、2021年6月、「地域脱炭素ロードマップ」へ地方から始める、次の時代への移行戦略^①を決定した。地域のすべての方が主役で、今から脱炭素へ「移行」していくための行程と具体策をまとめている。

これから5年間の集中期間に政策を総動員し、
 (1) 少なくとも100か所の脱炭素先行地域を創出し、
 (2) 重点対策を全国津々浦々で実施すること、
 「脱炭素ドミノ」により全国に伝搬させていくこととしている。



Ⅲ 自分の意見

脱炭素とカーボンニュートラル、さらには低炭素社会との違いや意味が分かった。また、グラフや図を通して、現状やカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが分かった。私たち国民一人ひとりができる取り組みとしては、エアコンの温度設定の工夫や太陽光パネルの設置など、日常生活の細やかな気遣いから住み方の工夫まで、様々なことができると考えた。

IV 考察

日本だけではなく、世界的に脱炭素は課題になっているということが分かった。また、気温の上昇による気候変動は、全くもって他人事ではないので、人ひとりが意識をもってカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みをしていく必要があると思った。

〈質問〉(講演会)

- 今の状態のままだと、2050年の気候はどのように変動するか。
- 国際的に働くためには、どのような力が必要か。
- 日本の外で働く場合は、どれ程の英語力が必要か。

資料を元に自身の考えや意見をまとめられています!

気が付いたことは是非積極的に質問を!



V 参考文献

- 「脱炭素ポータル」 ondankataisaku.env.go.jp
- 「NET ZERO NOW」 netzeronow.jp